平成２４年度

第7回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿

SYD SINCE 1906 公益財団法人 修養団

後　援：文　部　科　学　省
社団法人中央青少年団体連絡協議会
「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益財団法人日本レクリエーション協会
公益社団法人日本キャンプ協会

受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

文部科学大臣賞

- 埼玉県立桶川西高等学校　科学部　（埼玉県）

優　秀　賞

【小・中学生の部】 藤岡市立東中学校　生徒会　（群馬県）

【高 校 生 の 部】 盈進中学高等学校　ヒューマンライツ部　（広島県）

【大学・一般の部】 旭川医科大学　育児院学習サポート　（北海道）

特　別　賞

- 喜多方市立第三小学校　（福島県）
- V．C．イヤリング　（愛知県）
- 東京都立大島海洋国際高等学校　ボランティア部　（東京都）
- 網地島（あじしま）ふるさと楽好（がっこう）　（宮城県）

☆第7回SYDボランティア奨励賞には、42都道府県より[小・中学生の部]59件、[高校生の部]65件、[大学・一般の部]35件の計159件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて107年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

埼玉県立桶川西高等学校　科学部　（埼玉県）

「ハートフル桶西水族館を中心とした様々なボランティア活動」

平成15年に県立大宮光陵高校から本校生物室に30本の水槽と約300匹の魚が移設されたのがハートフル桶西水族館の始まり、以来その活動を発展させる中、地域に貢献するボランティア活動となっている。

水族館は一般公開し、授業日は放課後、夏・冬休み等の平日は終日開館している。一般来館者の他に、近隣の保育園や幼稚園、小学校、障害者施設からなど小さな子ども達が多く訪れ、見学に加えて金魚などの折り紙を教えたり、お絵かきなどをして楽しく過ごしている。水族館で過ごしている時の子どもたちの笑顔で、私たちも元気づけられ、やりがいを感じている。

その他に①毎年サケの受精卵を孵化させ、育てた稚魚を「荒川にサケを放す会」の放流イベントに参加、放流している。水族館の開設以来、この運動への参加を呼びかけ、昨年度は地元の小学校や幼稚園等計7団体が参加し、3,000匹の稚魚を放流した。②地元で開催されるイベントに「出前水族館と折り紙教室」の企画で参加し、子どもからお年寄りまでたくさんの人に楽しんでもらっている。③JR 東日本主催の「駅からハイキング」の見学ポイントに選ばれたことから、今年は約460名のハイカーが訪れてくれた。④水族館やイベント会場では、出前水族館で展示した魚の写真3枚セットを100円で販売し、その売上金全額を東日本大震災の義援金とした。⑤昨年から、グループホームの夏祭りに折り紙を教えたり紙芝居を披露し、交流を始めた。

水族館の一般公開から9年間で来館者数は約1万8千人を超え、これからもさらに多くの人に満足のいく見学をしてもらえるように、飼育方法や展示、案内、広報の仕方を工夫改善していきたいと思う。

様々な活動を行っていく中で、自分たちが学べ、成長できることが多くあり、学んだ一つ一つのことを大切にして「人に喜んでもらえたことを自らの喜びとしよう」をスローガンに、地域との交流を深め、地域に貢献していきたいと思っている。



〈朝日小学校の文化祭での出前水族館〉


〈町探訪で来館した小学２年生〉


〈孵化直後の
サケの稚魚〉


〈JR 東日本の「駅からハイキング」来館者〉


〈グループホームでの紙芝居〉

優　秀　賞

【小・中学生の部】 藤岡市立東中学校　生徒会　（群馬県）

「　ＬＬＴ運動　」

本校の生徒会は平成8年度より「共に生きる」を合言葉に LLT 運動(Let’s　Live　Together)を推進している。主な取り組みは①文化祭（藤樹祭）に地域のお年寄りを招待②生徒会本部役員、家庭科部、自然環境部等が協力してタペストリーやポケットティッシュカバーなどの手作り品を贈呈③アルミ缶回収の収益金で車椅子や空気清浄器等を贈呈する活動を続けてきた。

昨年の東日本大震災後、福島県相馬市の鹿島小学校出身の女性徒の転校をきっかけに、新たに鹿島小学校への支援も始めた。昨年は、放射能のため校庭で遊べないことを考慮し、体育館で使える「長縄」13本を贈り、今年度は遊具等が不十分な中で工夫して遊んでいるということであったので、ボールを贈るため、アルミ缶回収30万缶を目標に取り組んだ。

アルミ缶30万缶回収のため、毎朝、各学級で集計し一覧表にして表示した。また地域との連携を図るため、親戚・近所の家庭やコンビニ・スーパーにも趣旨を説明し回収に協力を求め、次第にこの取り組みが地域住民にも知られるようになり、支援の輪が広がった。さらに、2年生が行った職場体験学習先である会社や事務所に、3年生は3校の地元高等学校との連携を図り、それぞれに回収ボックスを設置させてもらい、定期的に回収を行った。

この取り組みの結果、362,655缶を回収することができ、老人福祉施設に歩行器やデジタルカメラを贈ると共に、ティッシュボックスカバー45部を贈呈した。また、鹿島小学校へはサッカーボール、ドッジボールなど46個のボールを贈ることができた。

アルミ缶回収というちょっと心がければ誰にでもできる活動を通して、多くの生徒がボランティアの意義や人の役に立つ喜びを感じ、生徒の心を育てることができた。また、被災地の現状を鑑み、この活動は継続していきたいと考えている。



〈毎朝各学級で集計した集計ボード〉


〈男子生徒も頑張った
ティッシュカバー〉



〈藤岡工業高校との連携
による電光掲示板〉


〈会社・事業所用回収ボックス〉


〈鹿島小学校へボールを送る〉



【高校生の部】 盈進中学高等学校　ヒューマンライツ部（広島県）

本校ヒューマンライツ部は「手と手から～中高生として地域や国際社会の平和と人権の環を広げるために貢献する」をテーマに活動するボランティアと調査研究を行うクラブである。日頃は月１回の地域清掃や、地域の障がい者・老人施設等でのボランティアや交流、中でもハンセン病療養施設での活動は16年間続いている。また、発展途上国に井戸を贈る活動も行っている。

さらに、毎年研究テーマを設けての活動も行っており、21年度は「ユダヤ人大量虐殺（ホロコースト）に関する手作り絵本の製作と読み聞かせ活動」、22年度は「鞆の浦の暮らしと命に学ぶ～埋め立て架橋問題から」、23年度は「福山空襲を記録する」、「東日本大震災支援活動」、24年度は「東日本大震災支援活動の継続」、「原爆体験を記録する」等である。

学校近くにあるホロコースト記念館でガイドボランティアをし、手作り絵本「明日へつなぐ平和のバトン～失った生命を見つめて/ホロコーストから学ぶ」を制作し、人権・平和学習会、幼稚園や保育園等で読み聞かせや朗読を行っている。「福山空襲を記録する」は、昭和20年8月8日の空襲にあった方の体験談を綴り、いろんな世代の人に読んでもらえるように、部員が挿絵を描き、冊子にまとめ、150冊を福山市人権平和資料館に寄贈した。これにより、自分たちも過去から学ぶ貴重な学習の場となった。

「東日本大震災支援活」では、平成23年7月から福島県川俣町、大玉村や宮城県岩沼市の仮設住宅を訪問。被災者の方との電話や手紙の交流を続ける一方、募金活動や学園祭で東北物産展を開き、現地に絵本や七五三の晴れ着を贈る等の支援を進めている。

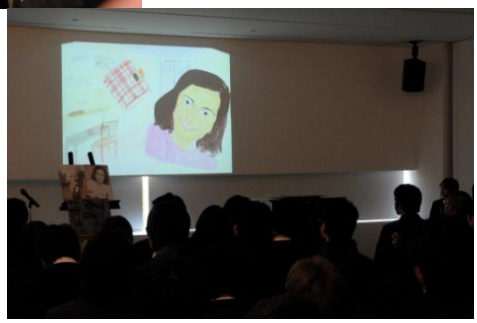
これらの活動は生徒たちにとって、貴重な出会いの、そして学びの機会となっている。これからもみんなの力を合わせ、いろんな活動を行っていきたい。



〈ホロコースト記念館での
ボラティアガイド〉



〈幼稚園で園児に読み聞かせ〉



〈オリジナル絵本の　→
読み聞かせ〉



〈福山駅前でのチャリティーステージの様子〉



〈ハンセン病療養所の入所者との交流〉

【大学･一般の部】 旭川医科大学　育児院学習サポート （北海道）

本団体は、旭川医科大学に通う医学生と看護学生で構成されたボランティアサークルである。活動は児童養護施設「旭川育児院」で暮らす中学生、高校生に毎週水曜日と木曜日に勉強を教えることである。

児童養護施設とは、何らかの理由で親が子どもを育てられない時に預かる施設で、現在、入所する理由の大半が虐待である。虐待されて過ごした児童は、発達障害等の精神疾患を持つ割合が高く、勉強も不得手とすることが多い。この様な現状を打開すべく「旭川育児院で生活を送る子どもの学習サポートを通じて、子どもの学力向上及び学生と子どもの交流を図ると共に、虐待の現状や発達障害の見識を深めること」を目的に据えている。

私達が勉強を教える利点として、大人に見捨てられた経験を持つ被虐待児は、大人を警戒することが多いため、子ども達にとって大学生の姿は想像しやすい近い未来であり、今まで考えられなかった「大学」という存在を身近に感じてもらえるのである。また、被虐待児はいわゆる普通の生活を送っていないため、「挨拶をする」「靴を揃える」等の行為が身についていない。これら「当たり前」を身につけさせていくことも必要となる。

毎週の継続的な活動によって、昨年度、一人の生徒が志望の国立大学に合格した。児童養護施設に暮らしていても大学に入学することができる、という希望が示された。この先輩の偉業は後輩たちを刺激し、勇気づけ、勉強へのモチベーションアップとなっている。

本団体は、この良いサイクルを継続していきたいと考えている。それを実現するため、今後も育児院へ通い、子ども達の生きる力を育んでいきたい。



〈各々が勉強をし、解らない所をサポート〉



〈時には子ども同士で教え合う風景が見られる〉



〈信頼関係が出来ると子どもたちは最高の笑顔を見せてくれる〉



〈部員の集合写真〉

特　別　賞

喜多方市立第三小学校　（福島県）

「ひまわりの種を通して人とつながる」

本校は平成23年4月に、岩月小学校と入田付小学校が一つになり誕生した。直前の3月11日に発生した東日本大震災による混乱の中であったが、予定通り統合ができ、第三小学校は正に「復興」と共に歩んできている。緑の少年団は統合前の実績を活かしながら、新たなスタートをきり、チューリップのプレゼント活動等を通して地域とつながる活動を行ってきた。

平成24年4月に神奈川県在住の方から震災被害に対する心遣いと応援の言葉が綴られた一通の手紙にひまわりの種が同封されていた。子ども達と相談し、その思いと共にひまわりを育てていくことを決め、緑の少年団と児童会（環境委員会）で種を蒔き、児童達が曜日ごとに分担し、世話を続け、夏休みには大輪の花を咲かせ、手紙の方の思いが子ども達の手によって結実したかのようであった。この種は11月に行われた学習発表会で、子ども達からのメッセージと共に、保護者や地域の方々にプレゼントされた。種は、手紙の方から子どもたちへ、そして地域の方々へと、ひまわりを通して心と心の交流が広がっていった。

この活動を通して、全校児童と教職員は、人と人とのつながりについて考える機会を与えていただいた。緑の少年団や児童会委員会の子ども達にとっても、自分たちの活動が地域を超え、人を結びつけ、多くの人々の心をつなぐことができたことで、心温まる交流を体験することができた。これをきっかけに、より良いつながりを更に広げていける子ども達に育ってほしいと願っている。



〈校舎の１階を超えるほどのひまわり〉


〈ひまわりの種をプレゼント〉



〈種をかぞえる委員たち〉

V．C．イヤリング　（愛知県）

この V．C．イヤリング（ボランティア・サークル　耳のつながりの輪）は、平成19年、姉が小学校5年の福祉の授業で聴覚障がいの事を学んだのをきっかけに活動を開始、平成20年からサークルとして活動をしている。普段は姉と弟の二人で活動をしているが、活動によって同級生（小・中・高校の仲間）を誘って行っている。

聴覚障がい者は、見えない障がいなので、障がい者と気づかれない方が多く、岡崎市で両耳の全聾の方は400人程いる。主な活動は①要約筆記用紙という通訳用のメモ帳の作成：折込広告から裏が白くつるつるの紙を集めてA4サイズにし、年間120冊ほどを寄贈している。②東日本大震災を受けて、ここ東海地方での大地震に備え、避難所での難聴者・障がい者サポート対応の勉強会の開催。③耳マークの広報活動：このマークは全国で10％程度の認知度であるため、街で危険な目に合ったり、態度の誤解を受けたり、対人生活での苦労の改善を目指している。④募金活動：集めたお金で、振動呼び出し器（病院や銀行等で呼ばれた時に振動する器械）や筆談ボードを購入し、病院等へ寄贈。（振動器3台、ボード80台）

これらの活動によって、福祉祭りの来場者の耳マーク認知度は、5年前は3割以下だったが今年は半数以

上の方に認知されていて、活動を続けて良かったと思った。またマーク表示のお願いやボードの設置依頼で、公共施設等を回り、自分たちの活動に耳を傾けてもらったり、反対に施設で行われている配慮等を聞く事ができましたが、まだまだ簡単にはいかない所も多くあるという事を学んだ。

これらの活動を「親切の押し付けや自己満足ではなく、相手の立場に沿った配慮」をモットーに続けて行こうと思っている。



〈メモ用紙作り～台紙も全て手作り〉



〈小・中・高の同級生を募って活動中〉



←〈耳マーク〉



〈コンサート会場で募金活動〉

東京都立大島海洋国際高等学校　ボランティア部（東京都）

本校ボランティア部のアルミ缶リサイクル活動は、平成5年に寄宿舎生であったクラブ員が「寄宿舎で大量に捨てられている空き缶を何とかリサイクルできないか」との思いから始まり、活動は20年目になった。当初は校内だけの小さな活動であったが、現在は島内各地域に活動の輪が広がり、協力を得て、1回平均1000～1500kgの売却量、年3～4台の車椅子を寄贈している。

当初、回収したアルミ缶をどの様に都内の業者へ運搬すれば良いか、試行錯誤が続いたが、海洋系高校である本校には、大型実習船があり、年に何度か東京港へ向かう時に運ぶ事が出来るようになったが、港からは卒業生を頼っての運搬であった。平成12年にアルミ缶リサイクル協会やリサイクル推進協議会より感謝状を頂いたことで、運搬を協力してもらえるようになり、今日に至っている。20年の間にアルミ缶の売却益で島内の福祉施設等に53台、東日本大震災の被災に4台を寄贈する事ができ、小さな活動であるが地道に継続してきた事の喜びを感じている。

平成13年度からは、福祉に優しい島作りの一環として「大島車椅子専用トイレマップ」の作成を行っている。このマップは、島内の施設トイレ、公衆トイレの位置、利用可能時間、自動車で走行した場合の距離・時間をまとめた物で、英語版も作成し、必要に応じて改訂も行っている。

ボランティア部は大島の住民の一人一人に環境問題の重要性やリサイクル活動の大切さを理解してもらうための発信地として、更に大島の高齢者や障がいのある方が、今、何を必要としているか小さな声を聞き逃さない、心のこもった活動を地域の方々と共に長く継続していきたいと考えている。



〈アルミ缶を実習船に積み込み〉

〈老人ホームへ車椅子を寄贈〉





〈玄関脇に設置したアルミ缶回収箱〉

網地島ふるさと楽好（宮城県）

石巻湾沖にある網地島の網地浜地区は約140人の高齢者ばかりの限界集落で、子どもは一人もおらず、十数年後には無人となる運命にあり、それゆえ子どもの大切さや愛おしさを身に染みて感じている地域である。

近年、子どもたちの虐待や育児放棄等の報道を見るたび、子ども達に何かしてあげられないかと考え「網地島ふるさと楽好」を開校し、仙台市内の4つの児童養護施設の子ども達が、島のおじいちゃん、おばあちゃんと本当の家族のように過ごし、自然に触れ、楽しい思い出を作ってもらい、将来自分の家族を持った時に戸惑わないように、温かな信頼関係を築く練習をさせてあげたい、と活動に取り組んでいる。

この楽好は、島の方々が自主的に考え、島民からの海産物の提供や民間団体の助成金等を活用しながら、平成18年から毎年2泊3日間開校し、5年間で8回、延べ390人余りの子ども達が参加、島伝統の魚釣り「アナゴ抜き」、獅子踊り、郷土料理作り等を、地域のお年寄りや島外のボランティアや大学生等約50名の協力で行っている。当初、子どもがいなくなった限界集落の網地浜地区のお年寄りは島の将来に対して悲観的な考えしか持っていなかったが、子どもたちが島に来て、伝統の魚釣りや郷土料理の価値が認められたことで島の誇りを取り戻し、積極的にこの活動に取り組んでくれる方々が増えてきた。

ここでは、家族の原点である「みんなで一緒に食べる事」を大切にし、海で獲ってきた魚などを皆で捌いたり、食事の準備を行い、調理した物を美味しく食べ、家族の温かみを感じられるものにしている。この交流を通じて、子ども達には「大切にされ、愛される記憶」を持って貰いたいと考えている。そのことが、自分を大切に思い、周りに感謝する気持ちを育て、子どもたちを幸せに導いてくれると考えている。十数年後には島の年寄りの多くが亡くなり、活動の継続が困難になる時期が来るだろうが、その時には施設を卒園した子ども達が大人になり、スタッフとして参加してくれるようになるまで、この楽好を続けて行きたいと考えている。



〈網地島の白い砂浜と綺麗な海〉



←〈島のおばあちゃんたちと交流〉



→〈シーカヤックに挑戦〉



〈島伝統あなご抜きに挑戦〉



第7回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催：SYD（公益財団法人修養団）
後 援：文部科学省、社団法人中央青少年団体連絡協議会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣　旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対　象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

(1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
(2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
(3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
(4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等9名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表　彰

文部科学大臣賞　1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア･アクション in フィリピン」へ2名招待）

優秀賞　3点（小・中学生、高校生、大学生･一般の部）

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特別賞　数点（小学生、中学生、高校生、大学生･一般の部）

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品

6. 贈 呈 式

期日：平成25年2月11日

会場：SYDホール

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

平成24年12月3日

10. 申込み･問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷 4-25-2　SYDボランティア奨励賞 係

TEL：03-3405-5441　FAX：03-3405-5424　E-mail：info@syd.or.jp　http://www.syd.or.jp/

選 考 委 員 （順不同･敬称略）	
青柳　修治（全日本中学校長会事務局長）	**明石　要一**（千葉大学教授）
大野　　曜（[公財]日本女性学習財団理事長）	**仲野　好重**（[一財]人間塾代表理事･塾長）
長沼　　豊（学習院大学教授）	**山田　一功**（日本PTA協議会相談役）
國分　正明（[公財]修養団理事長）	**山﨑　一紀**（[公財]修養団専務理事）
青木　富造（[公財]修養団理事･青年部長）	

過 去 受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

第1回（平成18年度）

文部科学大臣賞　京都市立京都御池中学校（京都府）

優　秀　賞　**【小学生の部】**鏡石町立第一小学校（福島県）

＊**【高校生の部】**該当なし　**【中学生の部】**庄原市立東城中学校（広島県）

【一 般 の 部】合同ボランティアネットワーク（神奈川県）

特　別　賞　◆国崎翠・吉居夏奈（北海道）　◆美幌町青少年育成協議会（北海道）

◆喜多方市山都第一小学校（福島県）　◆熱海市立小嵐中学校（静岡県）

◆加藤ひとみ（岐阜県）　◆伊江村立伊江中学校（沖縄県）

第2回（平成19年度）

文部科学大臣賞　香川県立多度津水産高等学校（香川県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**木更津市立鎌足中学校（千葉県）

＊**【小学生、一般の部】**該当なし**【高校生の部】**学校法人高倉学園豊橋中央高等学校（愛知県）

特　別　賞　◆天草市立城河原小学校（熊本県）　◆志布志市立通山小学校（鹿児島県）

◆東横学園中学・高等学校　中学2年（東京都）◆多治見市立多治見中学校（岐阜県）

◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」（神奈川県）

◆熊本県立盲学校（熊本県）◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（京都府）

◆ブラジルを美しくする会（ブラジル）

第3回（平成20年度）

文部科学大臣賞　学校法人篠ノ井学園　長野俊英高等学校　郷土研究班（長野県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ（福岡県）

＊**【小学生の部】**該当なし　**【　〃　】**2008 年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト（鹿児島県）

【高校生の部】更級農業高等学校　農業クラブ　農業応援団「ねこの手隊」（長野県）

【一 般 の 部】八雲ジュニアサポーターズクラブ（島根県）

特　別　賞　◆尾道市立三幸小学校（島根県）　◆鳴門市第一中学校　ボランティア部（徳島県）

◆富山県立小杉高等学校　生徒会（富山県）　◆富貴中おやじの会（愛知県）

◆高知朝倉里山を造る会（高知県）

第4回（平成21年度）

文部科学大臣賞　豊田市立崇化館中学校　麦の会（愛知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**日吉子どもサミット（滋賀県）

＊**【一般の部】**該当なし　**【中学生の部】**名古屋市立はとり中学校（愛知県）

【高校生の部】中央学院高等学校　生物部（千葉県）

特　別　賞　◆SYD北海道クラブ（北海道）　◆横浜市立岡村中学校（神奈川県）

◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年（長野県）

◆みんなでつくる学校　とれぶりんか（大阪府）

◆広島文化学園短期大学　食物栄養学科（広島県）

第5回（平成22年度）

文部科学大臣賞　高知大学　高知子ども守り隊　守るんジャー（高知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御前崎市立御前崎小学校（静岡県）

【中学生の部】京都市立嵯峨中学校（京都府）

【高校生の部】江楠学園　北陵高等学校　生徒会（佐賀県）

【一 般 の 部】東海大学海洋学部環境サークル　E.C.O(静岡県）

特　別　賞　◆清水町立清水中学校　劇団8・9組（静岡県）

◆宮城県立塩釜高等学校地域活化班　塩釜ぼんぼん（宮城県）

◆愛知県立日進高等学校（愛知県）

◆京都精華大学　ホスピタルアートボランティアグループ（京都府）

第6回（平成23年度）

文部科学大臣賞　善通寺市立東中学校　ボランティア部（香川県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御蔵島村立御蔵島小中学校　黒潮会（東京都）

【中学生の部】港区立青山中学校　お話会（東京都）

【高校生の部】岡山県立久世高等学校　家庭クラブ（岡山県）

【一 般 の 部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県）

特　別　賞　◆大和市立渋谷中学校（神奈川県）

◆新潟県立柏崎工業高等学校　防災エンジニアコース3年生、2年生（新潟県）

◆栃木県立栃木農業高等学校　村おこしプロジェクト班（栃木県）

◆出雲西高等学校　インターアクトクラブ（島根県）　◆播磨マリンクルー（兵庫県）



SYD『幸せの種まき運動』とは

－みんなでまこう！幸せの種－をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの"笑顔"という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という‘ふれあいの種’
☆ どうぞ ！という‘思いやりの種’
☆ありがとう！という‘よろこびの種’